第８学年２組　英語科学習指導案

令和５年２月９日（木）
指導者　三成　拓亜
ALT　　Sean Koopman

## １　単元名　　*Rakugo* Goes Overseas (NEW CROWN English Series 2　Unit 7)

## ２　単元の目標

自分の住みたいまちについて多面的に考えることができるように，外国人留学生の考える住みたいまちについてインタビューすることができる。

## ３　内容のまとまり

| | |
|---|---|
| 話すこと（やり取り） | 関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて即興で伝えあうことができるようにする。 |

## ４　単元の評価規準（話すこと（やり取り）の評価規準）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・現在完了形（完了，経験）を用いた表現の特徴やきまりを理解している。<br>・住みたいまちについて考えたことや感じたことなどを，現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。 | 住みたいまちについての考えを広げるために，外国人留学生にインタビューし，その内容に応じた質問や自分の住みたいまちに関する意見などを伝え合っている。 | 住みたいまちについての外国人留学生へのインタビューを通して，その内容に応じた質問や自分の住みたいまちに関する意見などを伝え合おうとしている。 |

## ５　基盤

### （１）　教材観

本単元では，英語落語が題材に取り上げられている。花とマークは英語落語を鑑賞しに行く計画を立て，二人で落語を見に行く。公演後，噺家が英語でインタビューに応える新聞記事を二人が読むような流れで構成されている。言語材料には現在完了形（完了，経験）が用いられている。Unit 6 で学習した現在完了形（継続）に加え，物事が完了している状態を伝えたり，相手の今までの経験を聞いたり，自分の経験を説明したりすることができるようになる。単元の後半には先生にインタビューをし，その先生のプロフィールを載せた英語の学校新聞を作成する言語活動が設定されている。今までは現在形・過去形などを用いて，現在や過去の事実や出来事しか表現することができなかったが，今までの経験や，継続して取り組んでいることなどを問うような表現を用いたインタビューを行うことで，相手についてより詳しく知ることができるようになる。相手の経歴や，ずっと思っている感情や意見などを問うインタビュー活動に適した単元であると考える。

### （２）　生徒観

本学級の生徒はコミュニケーション活動に対する意欲が高く，自分自身のことを語り合ったり，テーマについて話し合ったりするような活動に意欲的に取り組み，お互いに意見を伝えやすい雰囲気がある。自分の言いたいことを英語で伝えるためにはどうしたらよいかじっくりと考えたり，お互いに質問しあったりして，課題を解決に導こうとする。現在完了形については前単元である Unit 6 で

継続用法について取り扱っており，have＋過去分詞という形について学習してきた。しかし，まだ実際の活用場面は少なく，更なる練習が必要な状況である。

英語運用能力の高い生徒が複数おり，詳しく，具体的に自分の伝えたいことを伝えたり，困っている生徒の手助けをしたりするような場面も多く見られる。一方で英語学習に苦手意識を持っている生徒も同様に複数名在籍している。言いたいことを正しい語順で英語にすることが苦手な生徒，単語を覚えることがなかなかできない生徒，苦手意識が強く，学習意欲が低い生徒などがいる。UDL の視点を取り入れた言語活動を設定しながら授業を設計していくことで，そういった様々な生徒を個別に支援し，より多くの生徒が目標を達成することができるようになることをねらいたい。

**（３） 指導観**

本校英語科は「自分のもっている力を駆使してコミュニケーションを図る子どもの育成」を目標に，①相手意識や目的意識が明確になる単元構想の工夫，②既習事項を用いて「その場で考えて伝え合う」活動の設定，③主体的な学びにつなげる見通しとふりかえりの工夫に重点を置いて授業を実践している。

① 相手意識や目的意識が明確になる単元構想の工夫

本校では，独自のカリキュラムとして未来創造科（総合的な学習の時間）という課題探求を目標にした学習をしている。生徒たちは，幼稚園から後期課程まで 12 年間をかけて課題を解決するための手段や，方法などを学んでいる。後期課程では「住みたいまち」をテーマに，7 年生で公民館を訪問し，地域に身近な立場から考える住みたいまちを，８年生では市内の事業所を訪問し，企業・事業所を通して考える住みたいまちを考えてきた。9 年生では生徒自らが課題を設定し，住みたいまちにするためにできることを企画・実践していくことになる。本単元では，より広い視野で「住みたいまち」を考える一助として，外国人からの視点を取り入れるようになることを目的として，単元のゴールを「外国人留学生にとっての住みたいまちをインタビューして，レポートにまとめよう」とした。

単元のゴールについては，単元で学習した文法事項を活用しながら，実際の言語活用場面に即して，生徒にとって明確な目的・場面・状況を設定するようにしてきた。実際にアメリカの中学生に「自分の行ってみたい国」についてエッセイにして読んでもらったり，新学年での学級開きの一環として自分のことを知ってもらえるような自己紹介をしたりしてきた。本単元では島根大学の留学生にインタビューをすることにしている。本単元の学びが未来創造科の実践に活かされるような，目的・場面・状況の提示に心掛けたい。

② 既習事項を用いて「その場で考えて伝え合う」活動の設定

自分自身が考える住みたいまちを英語で表現できるようになるとともに，相手から伝えられる住みたいまちも理解しやすくなるようにするために，単元を通して「住みたいまち」に関するテーマについて，繰り返し言語活動を設定している。その際，過去の事実だけではなく，今までの相手の経験や継続して思っていることなどを聞くことを通して，より詳しく相手の意見を知るとともに，どのような目的・場面・状況で現在完了形を使えばよいのかを，体感的に理解させたい。また，自分の知っている語彙や表現を駆使してやり取りを続ける言語活動となるよう支援したい。

③ 主体的な学びにつなげる見通しとふりかえりの工夫

昨年の４月より，生徒たちが困難さを感じた際に，自分に合った学びの方法を選んで学習に取り組めるよう，UDL の視点を取り入れた支援を行ってきた。様々な言語活動に対して，その目標を達成するために，生徒が自分に合った学習方法（オプション）を選んで取り組んでいけるような支援を取り入れてきた。本単元は「話すこと（やり取り）」をねらいとしているが，やり取りをするためには相手の意見の概要を適切に理解する必要もある。より充実したインタビュー活動を実践するためにも，聞くことに対する苦手意識の高い生徒の支援も実践していきたい。

6　指導と評価の計画（全 10 時間　本時２/10）

| 時間 | ねらい（■）・主な言語活動等（丸数字） | 知 | 思 | 態 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ■単元の目標を理解する。<br>■今年度考えてきた自分の住みたいまちについて伝え合う。<br>①「住みたいまちランキング」について教師とやり取りする。<br>②現在完了（完了）の構造と意味を理解する。<br>③教科書の対話文を読み，現在完了（完了）の構造と意味を理解する。<br>④住みたいまちについて伝え合う。<br>⑤単元ゴールを知る。 | | | | 記録に残す評価は行わない。ただし，ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。 |
| 2<br>本<br>時 | ■「住みたいまちについて」やり取りする。<br>①住みたいまちについて教師とやり取りする。<br>②教師と ALT の対話を聞く。<br>③教師と ALT のやり取りを参考にして，ペアとやり取りする。<br>④現在完了（経験用法）の構造と意味を理解する。<br>⑤やり取りした内容を書く。 | | | | |
| 3 | ■「住みたいいなか」についてやり取りする。<br>①「住みたいいなかランキング」について教師とやり取りする。<br>②教科書の説明文を読み，現在完了（経験）の構造と意味を理解する。<br>③住みたいいなかについて伝え合う。<br>④現在完了（完了）（経験）の構造と意味を理解する。 | | | | |
| 4<br>5 | ■インタビューの方法や質問について理解する。<br>①教科書のインタビュー記事を読み，概要を捉える。<br>②インタビューの方法や質問について理解する。<br>③留学生への住みたいまちについてのインタビューを考える。 | | | | |
| 6 | ■インタビューする内容や，リアクションの取り方などについて考える。<br>①教科書の動画を見て，質問の方法や，聞き取りのポイントを理解する。<br>②自分の住みたいまちを伝えるためのポイントをまとめる。<br>③相手の住みたいまちを知るために必要な質問を考える。<br>④ペアにインタビューし，その答えに応じたやり取りをする。<br>⑤インタビューのポイントを振り返り，確認する。 | | | | |
| 7<br>8 | ■ALT の先生にとっての住みたいまちについてインタビューする。（パフォーマンステスト）<br>①自分の考える住みたいまちを伝え，ALT の先生の考える住みたいまちについてインタビューする。<br>②聞いた情報を英文にして書く。 | ○ | ○ | ○ | |
| 9<br>10 | ■外国人留学生にとっての住みたいまちをインタビューする。<br>①グループになり，外国人留学生に住みたいまちについてインタビューする。<br>②外国人留学生の考える住みたいまちについてレポートにまとめ，掲示する。 | | | ○ | |
| 後日 | ペーパーテスト | ○ | ○ | ○ | |

## 7　本時の学習（２／10 時間）

(1) 目標　現在完了形（経験用法）を用いたやり取りを通して，文の意味と構造を理解する。

(2) 展開

| 学習場面と子どもの取組 | 学びの多様性<br>(予想される困難さ・つまずき) | 教師の支援 |
|---|---|---|
| １．Warm Up<br>(1) Greetings | | |
| (2) English Song | ・曲に合わせて歌うことが難しい。 | オプション<br>①プリント(全文表示)を見ながら歌う。<br>②スクリーンに表示された歌詞（一文ずつ表示）を見ながら歌う。 |
| (3) 新出単語チェック | ・文字への抵抗が強く定着しづらい。 | オプション<br>①英語+日本語練習シートで練習する。<br>②英語+日本語+イラスト練習シートで，重要単語に絞って練習する。 |
| (4) 本時の学習目標を確認する。 | | |
| 住みたいまちについて，今までの経験を交えてやり取りしよう。 | | |
| ２．住みたいまちについて話す。<br>(1) 前時で確認した「住みたいまちランキング」をもとに，まちについて教師と対話する。 | ・住みたいまちについてはっきりとしたイメージが持てない。 | ・イメージしやすいように，未来創造科の既習内容と関連付ける。<br>・住みたいまちについての対話に関連する語句や表現に気付かせる。 |
| (2) 教師による ALT へのインタビュー形式のやり取りから「～したことがありますか」という表現の仕方に気付く。 | ・この場面での have+過去分詞が何を表しているか分からない。 | ・頻度を表す副詞などを伴った現在完了（経験用法）を用いたやり取りを聞かせ，その使い方や意味に気付かせる。<br>・現在完了形（経験用法）を用いた質問を生徒や ALT に繰り返し行うことで，場面・状況からその構造と意味に気付きやすくする。 |
| (3) 教師と ALT のやり取りを確認し，口頭で練習する。 | | |
| (4) 住みたいまちについて現在完了形を用いてペアでやり取りする。 | ・現在完了形を正確に使えない。<br>・対話が続かない。<br>・何を質問していいか分からない。 | オプション<br>①キーセンテンスを見ながら。<br>②教師と ALT のやり取りのスクリプトを参考に。<br>③教師と ALT のやり取りを想起しながら。<br>・次の対話に生かせるよう「言いたかったけれど言えなかった表現」を確認する。 |
| ３．現在完了形(経験用法)の文の意味と構造について確認する。 | | ・スライドに構造を提示し，視覚的にも理解しやすくなるようにする。 |

| | | |
|---|---|---|
| ４．やり取りしたことを書く。 | ・現在完了形の文を正確に書けない。 | ・個々に合ったワークシートを用意する。<br>オプション<br>①やり取りの型に語句を埋める。<br>②やり取りした文を書く。<br>③①または②に加え友達の情報を書く。 |
| ５．振り返りを書く。 | 見届けの視点<br>現在完了形（経験用法）を用いた文の意味と構造を理解している。<br>【評価方法　発言，ﾜｰｸｼｰﾄ】 | |

(3) 見届けの視点

| 目標が達成されたと判断される状況 | 努力を要する状況への手立て |
|---|---|
| 現在完了形（経験用法）の文を使って，やり取りしたり書いたりしている。<br>例：Have you ever visited ○○?<br>I have visited ○○ before. | 教師の ALT へのインタビューを振り返ったり，タブレット等のオプションを活用したりして現在完了形（経験用法）の使い方を再度確認する。また発話の際に教師が言い直したり，書かれた英文を訂正したりする。多かった誤りがあれば，次時に全体で共有する。 |